

FMe-niwa 令和7年度 第5回放送番組審議会議事録

開催年月日 : 令和8年1月16日(金) 11:00~12:00
開催場所 : えにあす2F クッキングスタジオ
審議内容 : 番組『みんなで地域防災』・社告「やってみよう防災」
および e-niwa における防災の取組について
出席委員数 : 7名中、出席4名放送事業者側出席:3名

【挨拶(代表取締役三浦)】

改めまして、明けましておめでとうございます。この1月でFMe-niwaも16年目を迎え、これから益々いろいろな形で取り組んで行かなければならないと思います。2026年は激動の年になりそうです。他国では年明け早々様々な動きがある中、わが国も衆議院解散など色々な動きがあります。そういった中で一人一人が様々なことに関心を持たなければいけない一年になるかと思っています。公共の電波を使って何が正しいのかをしっかりと見極め、市民の皆様に伝えて行きたいと考えています。番組審議委員の皆さんには厳しい忌憚の無いご意見を頂きながら、e-niwaを作り込んで行きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【事務局より】

今回は毎週金曜日に放送中の『みんなで地域防災』、番組間に放送中の社告『やってみよう防災』について審議をしていただきます。

※令和7年12月5日(金)の『みんなで地域防災』と、『やってみよう防災』3パターン放送。

【ご感想】

- ・聴いてもらいたい人に届いていない状態なのではと感じている。町内会でも色々取り組みが行われているが、町内会の防災イベントでも来てもらいたい人に来てもらえない状態。昨年自主防災組織が立ち上がり、11月には合同で防災について取り組んだ。今年は子どもを含めて取り組んで行き、自助について学ぶ必要があると感じている。有珠山噴火を経験し実際の避難所を見た経験があり、防災の番組を聴いて自助について自分たちが何をできるかを町内会などでも取り組んで行きたいと感じた。

【回答】

- ・届けたい人に届けるのは課題と感じている。ラジオ局と町内会が連携して防災イベントを開催できると良いのでは。インタビューや収録も可能。『防災訓練』では無く『ラジオ出演ができる町内会イベント』という形で呼びかけると、参加者増につながる可能性があるのではぜひ活用してもらいたい。

【ご感想】

- ・防災番組は災害があると注目されるが、時が経つと意識が薄れていく。そういった現状でも番組を続けて聴いてもらう事により、防災に関しての意識が途切れる事なくイメージが膨らむのではないかと感じた。
- ・自分は釧路出身で地震が多く、地震は身近に感じていた。町内会は場所により防災意識の違いを感じるが、意識が薄い方に対しても防災番組はとても良いと思った。

【回答】

- ・有珠山の噴火も近いという話もあり、防災番組や意識を高めて行く必要があると感じている。恵庭市とも日ごろから連携しているので、今後も活かして行きたい。各町内会会長には自動起動ラジオを配布済み。昨年は緊急防災ラジオを販売し、予想以上の方々が早い段階で来館された。即日完売した為、3月に再度販売予定。

【ご意見】

- ・防災ワンポイントで紹介しているランタンなどについて、もっと身近な違う物でも代用可能など具体的なポイントが伝えられると実践しやすいのでは。

【回答】

- ・今回聴いていただいた以外にもたくさんパターンがある。今後は具体的に実践できる防災豆知識のような内容を追加する予定。

【防災に関してご意見】

- ・北海道文教大学では年に何度か避難訓練がある。備蓄の防災食入れ替えのタイミングや、大学祭で試食をする機会があるが、今後回数を増やしても良いと感じている。恵庭市の備蓄品を使ったレシピを考案した経験があり、このような事業を継続していきたい。

【防災に関して局より】

- ・最近の地震発生時、恵庭市の外国人にとって情報がわかりにくいと聞いている。多言語など、何等かの形で伝えて行く事が今後の課題と考えている。
- ・開局 15 周年感謝祭で備蓄品を使った料理教室を開催。今後も開催していきたい。

【その他】

- ・委員同士で情報共有
次回の開催は令和 8 年 3 月 13 日(金)

総委員数 7 名(敬称略)

○出席 4 名：前田孟志、野口昭彦、小塚美由記、青木理恵

○欠席 3 名：落合信也、鉢呂大介、佐々木望

○放送事業者側出席 3 名

代表取締役：三浦孝史 取締役：三浦真吾 職員：滝沢貴之

審議会の答申又は、意見の概要を公表した場合の公表内容

公表方法 自局内放送および局内掲示板にて

公表内容 上記の概要

公表年月日 令和 8 年 2 月 2 日